

# 三翠化学

(題字は稲川先生)  
第 66 号  
平成 29 年 8 月 日 発行  
三 翠 化 学 会  
津市栗真町屋町 1 5 7 7  
三重大学大学院生物資源学研究所内  
電話 / (059) 232 - 1211  
振替 / 00890 - 1 - 59345  
印刷 / 株式会社 あるむ  
TEL (052) 332-0861 大 8 長谷川 正一

## 平成二八年度 総会報告

副会長一名増員 苅田修一氏(大30回、学内教員)  
生物圏生命科学科、資源循環学科学の化学系研究室卒業生  
本同窓会への無条件入会認可を決定

残暑お見舞い申し上げます。毎日暑い日が続いていますが、三翠化学会、同窓会諸氏におかれましては、益々ご健勝で、ご活躍とお喜び申し上げます。常日頃から同窓会活動にご理解、ご協力を賜りまして心から御礼申し上げます。また、三翠化学会への賛助金につきましては、三年間に渡り多数の方から暖かいご支援をいただきましたこと、役員一同心から御礼申し上げます。

### 平成29年度 三翠化学会 同窓会のご案内

日時 平成 29 年 10 月 21 日(土) 11:00 受付開始  
総会 11:30 ~ 12:00  
講演会 12:00 ~ 13:00  
講師 鋤柄 修氏 (本学農芸化学科卒 大12回)  
演題 「自由を求めて自主独立」  
～環境ビジネスと会社経営に人生をかけて～  
略歴 (株)エステム前代表取締役会長、愛知中小企業家同友会代表理事等を歴任  
中小企業家同友会全国協議会会長、現在に至る。  
懇親会 13:15 ~ 15:15  
会場 総会・講演会 生物資源学部大講義室  
懇親会 三重大学生協 第1食堂  
懇親会会費 5,000 円  
参加いただく予定の先生方  
小畑 仁、久松 真、栗冠和郎、田中晶善、橋本 篤の諸先生  
(なお、長老の先生方には、体調と御相談の上ご参加いただければ幸いです。)  
幹事連絡先  
杉崎 護 (大16回) 090-1624-6160 m-sugisaki@arrow.ocn.ne.jp  
木村幸信 (大25回) 090-4859-3554 y.kimura3no0@gmail.com  
勝崎裕隆 (大36回) katsuzak@bio.mie-u.ac.jp  
出欠の締め切り 返信用はがきで9月末日までお願いいたします。

一四年前高遠を訪れ、城址一山を包む満開の小彼岸桜に圧倒されて以来、桜に興味を持ち始めた。翌年山梨県実相寺の山高神代桜(樹齢最長二千年)を訪れた。樹勢回復処置がされていたが幹の根元は今にも枯れそうなのにつかり花を咲かせている姿を見て思わず手を合わせる程の感動を覚えた。福島県三春町の滝桜(千年)には大きな王者の如き姿で滝の様に枝垂れる系桜に胸を打たれ、一本桜古木の虜になった。岐阜県

### 一本桜古木に魅せられて

まず、二七年度の事業報告(西尾幹事)、会計報告(三島幹事)欠席で勝崎副会長、監査報告(久松監事)が行われました。次いで平成二八年度役員人事が諮られ、大部分の方が留任されましたが、副会長に苅田修一氏(大30回、学内教官)が追加選出されました。これは、次に述べる議案について親会三翠同窓会との折衝等を担当する為の



臥龍桜

#### お勤めの一本桜古木

県	場所	名称	コメント
岩手	盛岡市 裁判所前	石割桜	根が岩を割って育つ
山形	置賜さくら回廊伊佐沢	久保桜	日清戦争戦勝桜写真
福島	郡山市 上石	不動桜	三春3大桜
福島	郡山市 紅枝垂れ	地蔵桜	三春3大桜
福島	川俣町 秋山	駒桜	姿が良い
福島	会津若松市	石部桜	「八重の桜」タイトルバック
埼玉	秩父市 清雲寺	枝垂桜	数本の大きな枝垂れ桜
千葉	市川市 弘法寺	伏せ姫	綺麗な枝垂れ桜
神奈川	小田原市 長興山	枝垂桜	箱根登山電車、入生田駅
山梨	甲州市塩山 慈雲寺	枝垂桜	真上から桜が枝垂れる
山梨	身延山 久遠寺	枝垂桜	報恩閣と桜がマッチング
長野	伊那市 勝間	枝垂桜	2本、立派で見事
長野	飯田市 美術博物館	安富桜	ツアー客で一杯
長野	高山村	五大桜	水中の枝垂れ、黒部のエドヒガン他
岐阜	庄川湖	庄川桜	湖底になる寺から植え替えた
静岡	三島市 三嶋大社	三島桜	大島桜、枝垂れ桜も

人事であるとの説明が会長よりなされました。次に生物圏生命科学科、資源循環学科学の化学系研究室を卒業された一三年間(今後も含めると一五年間)の卒業生の本会への入会を無条件で認可するとの提案が会長からなされました。そして、無条件の説明として、「生物圏生命科学科及び資源循環学科学の化学系研究室を卒業し、本人が希望する限り三翠同窓会の会員の有無を問わず、また入会金も取ることなく入会を認めよう」ということが提案されました。最後に平成二八年度の事業計画案、予算案が提案され、以上の議題は審議の上、全て満場一致で可決承認されました。

根尾谷の淡墨(うすずみ)桜(千五百年)は花の色は蕾ではピンク、満開で白散り際は淡い墨色に変化する。七年前に訪れた時はまだ咲き始めで残念な思いをした。三年前にやっと満開に出会えて長年の夢が叶った。この三桜は日本三大桜と称され、ツアー客も多い。桜の語源ではサは田の神、クラは神坐、田の神が桜の木に降りたち居座っているとの意とされる。桜の花が咲くと農作業を始める

種撒き桜、苗代桜の名前の古木も多く、根元に祠を奉り、村の守り神として大事にされている。春を告げる桜の長寿と崇高さを感じざるを得ない。予定のない日と行きたい先の開花状況とを兼ねせながら場所と日程決めが悩みであり、楽しみでもある。訪ずれた先の桜写真と要点を記述した写真集が宝である。

私の好みのベスト3①は山梨県韮崎の王仁(わに)塚桜。八ヶ岳を背景に田圃脇に立ち、写真集に良く使われ、最盛期にはカメラの脚立置場がない混雑振り、早朝空気が澄んだ時間に良いアングルから見るとは美しい。②は岐阜県高山の臥龍桜。千百年だが樹勢回復が叶い、伏した龍の如き大きな雄姿で、花数が多

く堂々としており、何時までも見飽きない桜。③は秋田県角館武家屋敷の枝垂れ桜。京都から興入られた姫が持参の桜を藩の指示で各屋敷に植え、守られてきた桜。道を挟む家々の高い幹から道に垂れる系桜が風に揺れる姿は人が少ない早朝に眺めると言葉にならない程情緒があり感動する。これまで述べた桜は枝垂れ桜も含めて何れも江戸彼岸桜である。他にも見ていただきたい

#### 賛助金振込み者御芳名 (敬称略)

- 岩田 章、神原繁雄、吉田誠之、草深新三郎、嶋田 協、桑原章郎、清水利一、福田 映、前田 孝一、河合美登利、坂野市三、田中秀志、梅田尊夫、数本義雄
- 加藤 晃、深谷広成、藤本堯夫、吉野遷次、石原 暁、奥村哲郎、平塚 孝博、加藤 健二、原 弘三、藤本公三、山口宗男、鈴木 潔、坂東正一、平田忠史
- 平田 忠司、荒木 宏、伊藤 道子、小出章夫、神原孝男、保継房博、土肥 篤光、今西康隆、大橋藤五郎、亀山幸輝、河村 宏、鋤柄 修
- 谷由美子、廣部 肇、松崎邦忠、岡崎直人、川原美千代、小林英則、清水宣雄、高橋恒明、戸嶋 行進、西野忠明、宮城久茂、阿形光治、内田勝啓、小畑 仁、橋本時雄
- 池山洋久、駒田 誠、酒井敏秀、榊原章美、杉崎清子、本庄達之助、村田昂三、山田昭文、岡田 啓安、滝 弘彦、平田秀彦、前田眞彦、糀谷次雄、高瀬 敏
- 田巻 聰、浅井美由、小澤端夫、東海裕作、中野 潤、西出裕次、古橋雅巳、松本 年晴、小田豊博、田中俊一、実 田中、西田律夫、久 藤川誠一
- 伊藤哲雄、中川順博、名取重治、浅野真一、丹羽誠一、飯田陽一、飯田陽一、古山順啓、木村幸爾、早川幹男、稲垣長裕、佐水清和、服部正之
- 藤田勝俊、森 亮夫、山北和男、荒木幸隆、岩田将司、岡本俊二、三田清司、内田郁夫、小川悦孝、本多芳孝、柳瀬茂樹、山田恵一郎、飯田博樹、小出恭司、近藤博巳、酒井昭弘
- 粉川英治、粉川由香里、孕石敏貴、孕石順深、山口千香子、中西俊子、稻森国勝、岸田吾一、曾我本聖美、前田祥貴、市井広樹、林 秀謙、伊藤晴枝、中井芳樹、朝比奈亮
- 布目知広、岡森万里子、小田篤子、大村知子、酒井正治、久松 真、柏村直樹、駒田禊子、小宮孝名

#### 賛助金ご協力の御礼

本年度も賛助金をお願い致しましたところ、三回目のお願ひにもかかわらず今回も総額百万円を超え(三重大グズ代、払い込み手数料を引いて八〇万円)心のこもったご支援を頂きました。皆様方の篤いお志を強く感じ、改めて役員一同心より御礼申し上げます。ここに「芳志をいただいた方々のご芳名を掲載させていただきます。皆様方の御見を頂ければ幸いです。あらゆる大学、近未来三翠

化学会に入会いただける新しい学科の学生さんと本会との交流も始まっています。その後は、三翠会(親会)経由で入会者に見合うお金が本会にもいただける見通しで、念願の財政健全化が実現しそうな感じしております。まだ確定ではありませんが、今後の推移に期待したいと思います。改めて御礼申し上げます。後ともご支援いただきますようお願い申し上げます。(会) 長 杉崎 護 資金担当 小畑 仁



### 第十八回三翠化学会 関西支部交流会報告

三翠化学会関西支部は、昭和五九年に第一回総会が開催され、平成一三年からは、支部総会から交流会に名称を変更し、平成二七年まで一七回の開催を重ね、現在も活動を続けております。これも毎年の支部の活動を支えて頂いている三翠化学会本部、毎年の交流会に際し、ご講演を引き受けてくださった講師の皆様のご多大なご協力があったことで、心より御礼申し上げます。

第一八回支部交流会は、平成二八年一月二二日(土)、ご来賓として三翠化学会長の杉崎護氏(大16回)、副会長の木村幸信氏(大25回)にご出席を賜り、今回も新大阪のホテルクライトンにて開催されました。

第一部は関西支部総会で、冒頭に物故者に黙祷を捧げました。次いで岸田幹事(大36回)の司会のもと、杉崎会長よりご挨拶があり、三翠化学会本部の現状と各支部の活動状況及び機関誌「三翠化学」への協力金の御礼についてお話しいただきました。その後、谷中支部長(大13回)からは平成二七年度の活動報告、堀幹事(大28回)の会計報告、谷口幹事(大20回)からの会計監査報告が行われ、満場一致で承認されました。

第二部は恒例の談話会です。岸田幹事の司会で、まず、三重大学大学院生物科学研究科長・学科長の梅川逸人氏(院14回)より、「生

### 第一四回三翠化学関東支部総会 および講演会・懇親会開催される

第一四回支部総会および講演会・懇親会が二月二五日(土)一時から大手町J AビルB1のラ・カンパニユで開催され、二四名が出席しました。

全体の運営を平田副支部長(大20回)の進行ですすめ、まず、浅井副支部長(大19回)から案内・参



加状況の報告がありました。一七七名に案内(内メールが一一一名、葉書が六六名)しましたが、回答者は一〇〇名で回答率は五六・五%(前回五五%)でした。今回は、高齢者だけでなく直前に体調を崩された方も含め、申込み後のキャンセルが多く二四名に終わりました。

次いで、吉田関東支部長(大18回)の開会挨拶の後、杉崎三翠化学会会長から来賓の挨拶があり、生物資源学部の改組に伴う後援会の今後の見通しと課題について報告がありました。

引き続き総会に入り、東海副支部長(大19回)が資材・素材として利用されていること、製品開発業務を通じて得られた教訓についてご紹介いただきました。特に、血管を接着する「外科用止血剤」について、ものは早い時期にいいものができたが、医療分野・薬材に恵まれず、その結果一時開発が中断し、製品化までに大変な長期間を費やしたこと、「ねらい目は、成長分野のローテク材料」必要なのは、相手に分かることばで自分の考えを話す能力」という内容が印象に残りました。

出席者全員での記念撮影の後、第三部はいよいよお楽しみのお懇親会です。田宮幹事(大36回)の司会で開始となり、杉崎会長に乾杯のご発声をいただきました。鳴林名誉教授(専一)回、大2回)、木村副会長、杉崎

恒例となりました講演会(大20回)の退任された、新しく丹羽誠一(大22回)と蛭野政美(大27回)の両氏がまた監事に中島亨(大22回)が信任されました。吉田支部長、浅井、東海、平田、飯田の各氏は再任され、今期も八名体制で運営することになりました。

恒例となりました講演会(大20回)の退任された、新しく丹羽誠一(大22回)と蛭野政美(大27回)の両氏がまた監事に中島亨(大22回)が信任されました。吉田支部長、浅井、東海、平田、飯田の各氏は再任され、今期も八名体制で運営することになりました。

閉会の挨拶で、吉田支部長から来年は第八回交流会を二三月に、第六回ゴルフ大会を六月七日(水)に開催する予定であり、多くの方の参加をお願いしました。(三面関連記事)

集合写真撮影の後、飯田副支部長(大23回)の進行のもと、亀山幸輝先輩(大12回)の乾杯の発声で、恒例の懇親会が始まりました。今回はフランス料理で二時間の飲み放題で運営しました。当店は全農が経営

会長夫人清子氏(大16回)、今回初参加の今川佑介氏(大50回)のお話があり、いつものように近況を報告しあったり、和気あいあいとした雰囲気でお懇親会は進みました。最後に、恒例として三翠応援歌を熱唱して連帯感を深め、谷中支部長より来年の再会を期した閉会の辞で、第一八回関西支部交流会はお開きとなりました。

最後になりましたが、交流会にご参加いただきました皆様、支部運営協力費にご協力を賜りました皆様、御礼申し上げます。 西本和実(大33回)

### 第一九回三翠化学会 関西支部交流会のご案内

日時 平成二九年一月一八日(土) 午前一時から

場所 ホテルクライトン新大阪

談話会特別講師(予定)

「農芸化学の学生の変遷 昭和最後から現在まで」研究環境 学生生活 就職など」 三重大学生物資源学部准教授 勝崎裕隆氏(大36回)

「日本の医薬品市場の現在・過去・未来」 バイエル薬品(株)コーマーシャルインサイト & アナリティクス部長 小川悦代氏(大30回)

最新の知見に触れ、三翠化学の同窓生と楽しく語り合う絶好の機会です。関西支部以外の皆様のご参加も歓迎いたします。同級生をお誘いあわせの上、是非ご参加ください。

### 新任の挨拶

岡咲 洋三

平成二九年四月一日から生物圏生命科学専攻・生命機能化学講座・生物機能化学教育研究分野の准教授に就任しました。出身は兵庫県で、京都大学大学院農学研究科で博士号を取得しました(博士論文主査・西岡孝明教授)。学位取得後は京都大学にて半年間研修生で過ごした後、鳥津製作所にて二年勤務しました。平成一九年一〇月からは理化学研究所にて勤務し、主に質量分析計を用いた網羅的な脂質解析と脂質代謝研究に従事しました。

私は様々な植物サンプルの脂質情報の取得と並行して、植物がストレスに晒された際に蓄積する未知脂質の同定やその機能解析に従事しました。一〇年近くの研究生活でしたが、色々

### 着任の挨拶

國武 絵美

平成二九年三月一日付けで生物圏生命科学専攻・生命機能化学講座・微生物遺伝学教育研究分野の助教に着任いたしました。國武絵美と申します。大阪府堺市で生まれ育ち、大阪府立大学大学院生命環境科学研究科で川岡剛司教授のご指導のもと学位を取得しました。その後、名古屋大学大学院生命農学研究科で三年半、農研機構農業環境変動研究センターで半年間、研究員として勤めて参りました。同教育研究分野教授・

木村哲哉先生や合同で研究室を運営している応用微生物学教育研究分野教授・栗冠和郎先生は学生時代から存じ上げておりましたので、伝統あるこの研究室に来ることができ大変うれしく思っております。私の研究テーマは微生物の有用酵素の生産制御で、

な分野の方々の出会いも含めて非常に貴重な経験を積ませて頂いたと感じています。

この度ご縁があつて採用されましたが、前途ある若人に仮説を実験で検証することの面白さや、その過程における天然物化学や分析化学の利用について伝えていければ幸いです。まだ赴任して数か月でよく分かっていないことも多いと存じますが、今後どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

### 三翠化学会 関東支部交流会 次のご案内

日時：平成 30 年 3 月 17 日  
会場：三重テラス 東京都中央区日本橋室町 2-4-1 YUITO ANNEX 1F・2F  
詳細問い合わせ先 幹事：飯田徹也 (大23回) TEL: 090-4538-5180 e-mail: tetty.iida@nifty.com



### 関東支部第六回ゴルフ大会を開催

優勝は大学26回の菅原博氏、二度目の参加で初優勝

関東支部第六回ゴルフ大会を平成二九年六月七日(水)、昨年に引き続き取手桜が丘ゴルフクラブ(茨城県、JR常磐線藤代駅に近い車で五分の名門コース)で開催しました。

今回は、常連が不参加で幹事の飯田副支部長の友人の応援参加を得ましたが、二組八名の一寸寂しいコンペとなりました。週間予想では雨の予想でしたが、皆さんの日頃の行いよろしく、曇りど暑くもなく絶好の天気に恵まれました。各選手和気あいあいの中にも真剣なプレーで、優勝を指し一喜一憂しながらのラウンドでした。

新ペリアのハンデ戦で行った結果、優勝は菅原博氏(大26回)でイン四五・三名とレベルの高い大会となりました。

アウト四四のグロス八九ハンデ一四・四、ネット七四・六で堂々の初優勝です。菅原選手は栃木からの参戦で二度目の参加での栄冠です。同伴しましたがゴルフに対する愛着とプレーに対する熱心さを感じさせられました。準優勝は吉田吉明氏(大18回)で、イン三九・アウト四三のグロス八二、ハンデ七・二、ネット七四・八でした。ベスグロは、グロス八〇(四二・三八)の長島貞武氏(大15回)で実力を見せつけましたが、ハンデ(四・八)に恵まれず前回同様三位に終わりました。ブービーメーカーは平田選手でしたが、グロス一〇で、今回は五名が九二以下で八〇台三名とレベルの高い大会と

なりました。ベスグロは長島さんの定席になっていますが、後輩の追い上げを期待したいと思っています。ドラゴン賞は飯田選手(大23回)が一人で二ホール制覇、一方ニアピン賞は吉田選手が二ホール、長島選手が一ホールで、飯田選手はニアピンも確保しました。

最後に参加者を敬称略で紹介いたします。小島楯彦(15回)、長島貞武(15回)、吉田吉明(18回)、浅尾由一(19回)、平田友良(20回)、飯田徹也(23回)、菅原博(26回)、水島昇(オープン参加) 皆様ご苦労様でした。 吉田吉明(関東支部長)

### 大学6回 クラス会



大6回生(昭和33年卒)は平成29年5月24日、幹事藤本氏のもとKKRホテル熱海でクラス会を開きました。熱海には観光客が回復して賑わっているかと思われましたが、平日のためか昔日の面影はありませんでした。ホテルよりは静かな相模湾が一望でき、その眺望を満喫しました。

今回の出席者は11名(卒業生29名、物故者9名)でした。地元の新鮮な海の幸に舌鼓を打ちながら盃を重ねました。その後一室に集合し12時近くまで語り合いました。その席で杉本氏より「18歳と81歳の違い」(ブログより引用)と題する戯れ言が披露されました。それを紹介します。

- 道路を暴走するのが18歳、逆走するのが81歳
  - 心がもろいのが18歳、骨がもろいのが81歳
  - 偏差値が気になるのが18歳、血糖値が気になるのが81歳
  - 受験戦争を戦っているのが18歳、アメリカと戦ったのが81歳
  - 恋におぼれるのが18歳、風呂に溺れるのが81歳
  - まだ何も知らないのが18歳、もう何も覚えていないのが81歳
  - 東京オリンピックに出たいのが18歳、東京オリンピックまで生きていたのが81歳
  - 自分探しの旅をしているのが18歳、出かけたまま分からなくなってしまうのが81歳
  - 「嵐」というと松本潤を思い出すのが18歳、鞍馬天狗の嵐寛寿郎を思い出すのが81歳
- ※81歳は6回生の平均年齢
- 翌日朝食をとりながら、来年のクラス会は卒業後60年という節目の年という事で母校周辺での開催を決め、再会を約して解散しました。(出席者) 加納、川内、上瀬、杉本、豊田、西沢、服部(英)、福田、藤本、松尾、吉野の各氏 (吉野)

### 大学第23期(昭和50年卒) 三年連続クラス会

還暦を過ぎた3年前のとき、そろそろ大学を卒業して40年になる、一度も同期会をしたことがないなあ、40年を記念して同期と顔を合わせたいなあという気持ちが高まりました。ちょうどそのころ、担任の嶋林先生の叙勲祝賀会の案内があり、この機会を生かすことを同期の数人に声掛けしました。三翠化学会関東支部の役員をさせてもらっている関係から小生が幹事の一人として、津市在住の岩田さんには嶋林先生との窓口をお願いして、祝賀会のあとに続けて同期会の開催とごぎつけることができました。これが恥ずかしながら初めての同期会でした。(東海地区に在住のメンバーは一度同期会をしたという話をしていたが、私にとっては初めての会合)23名に連絡が取れ11名が集まり先生との本当に久しぶりのひと時がすごせました。嶋林先生にとって唯一の担任であったとお聞きし申し訳ない気持ちが一杯でした。

その時に集まったメンバーの同意で、できるだけ同期会を開催しようということになり、昨年・本年と3年連続同期会を開催することができ、嶋林先生にも毎回参加いただいています。学生時代の思い出や近況を語り合う。40年は長いなあと感じる。道端ですれ違っても全く分からないだろう。40年前にタイムスリップ。40年のブランクが一瞬になくなる。懇親会の最後に次回の幹事を決め、再会を誓って散会した。

昨年は3月12日名古屋駅前で宴会懇親会(12名参加)。その後、有志(9名)が西浦温泉に一泊し翌日ミツカンミュージアム見学(案内:ミツカンOBの谷田さん)。今年は3月25日に昨年と同様に名古屋で宴会懇親会(12名参加)、有志(8名)が犬山温泉に一泊、翌日国宝犬山城見学(案内:犬山在住の山本さん)。

これまで三回の同期会で次のメンバーが顔を合わせています。嶋林先生と飯田・伊藤・稲熊・岩田・浦田・大沢・河合(恒)・河合(照)・木村・高橋(一)・谷口・谷田・中神・長橋・畑・森・山本。

なお、同期の消息を調べるのに個人情報保護が壁になり、3回の同期会で唯一連絡がとれないのが河合春夫さんです。情報をお持ちの方がおられましたら23期の誰かにご連絡ください。(飯田)



### 四〇年ぶりのクラス会(大25)

九月一七日25期(入学または卒業者)クラス会を開催しました。卒業以来三九年と半年ぶり(まあだいたい四〇年ぶり)の会合を津新町駅近くの割烹「がれん」にて開催しました。急な声掛けで出席率は高いとはいえませんが、まずまずの二三名が参加しました。駅で顔を合わせても、どこのおっさん? 爺さん? といった感じで、名乗って初めて誰かわかるという有様。それでも数分ぐだぐだ喋ると、思い出すというよりは、学生当時の声と顔がそっくりこの今見ているままだったような錯覚に陥ります。ほとんど顔も合わず四〇年、みんなそれぞれ決して平坦な道ではなく、山あり谷あり谷底あり断崖絶壁ありの四〇年を歩んできたよう、血湧き肉躍るほどでもないが退屈はしない程度で近況報告を順にしていって、二時間以上が経ってしまいました。超個人的な感想ですが、話している背中びして話を合わせる必要もないし、く

どくどく嘯み砕いて説明しなくても皆さんわかってくれるし、というこのストレスのなさが、普段の社会生活の中で味わえないクラス会特有の安心感なのでは? と思いました。当時の思い出話ほとんどしてなかつたように記憶しているのですが(ひよっとしてアルコールで私の記憶だけが流亡した?) それでもじゅうぶんそれなりに間は持つものです。 ちなみに会場の「がれん」は参加者T君の息子が切り盛りする「ちよつ」といお店。この若い大将は親父と違い、かなり真面目な仕事をします! 津市内で「知り合いの店があるから飲みに行こうか」なんていえる店が一つゲットできました。次回はさらに四〇年後というのも面白くない? という提案は当然無視され、今年稲刈りで欠席したメンバーが飼っているヤギ一〇頭が会いに、来年は遠出をしよう! と決め、四〇年ぶりのクラス会はお開きとなったのでした。(木村)

### 今、私は

農芸化学科20期(一九七二年卒) 観音山フルーツガーデン代表 児玉 典男

弊社は和歌山県北部の紀ノ川沿いに位置しており、この地域は全国で例を見ない程多様なフルーツが栽培されている活発な農業地帯です。しかし私の就職当時は温州みかん栽培に特化し、尚且つ卸売り市場販売が全てでしたので、気候や他の産地の動向で相場が左右され不安定な経営を余儀なくされてきました。

六次産業化では「有利な販路開拓」が一番難しいのですが、弊社の転換期は約三〇年前のパソコンとの出会いです。平成八年、近畿で初めてアクセスポイントが大阪大学に開設された事を知り、インターネットを利用開始し、その後、アナログのダイアルアップで通信販売サイトを立ち上げ

ました。それをきっかけとして弊社の直販の歴史はネット人口の増加とほぼ同じ推移を辿っています。現在の顧客数、一〇万件は弊社の誇りです。生果加工品、サービス等、お客様から直接頂戴する全てのお声は、弊社のスキルを高める最大の原動力になっています。

また、田舎にある従業員数わずか四〇名の小さな会社ですが、地域へ雇用場を提供できることに大きな喜びを感じています。「農業の六次産業化」とは一つの組織内での「生産」「加工」「販売」の相乗効果を指しますが、弊社では今、少し目先を変え、中期滞在の海外インターンシップ生による「インバウンド」や「輸出」「農業の担い手育成」「フルーツとアート」分野でも活動しています。海外からの留学生が常に数名滞在し、農園に英語やドイツ語、フランス語が飛び交う日々、ある意味では全国でもオンリーワンの存在ではないかと自負しています。そのような環境もあり、ここ一〇年は毎年数回全国に向けて活動内容をテレビや雑誌で紹介していただき、各メディアへの露出も多くなっています。





# 生物化学・分子細胞生物学研究室同門会



奥村克純先生



田口 寛先生



嶋林幸英先生

訳は、半々という年齢バランス絶妙の同門会となりました。

当日は、司会者小川悦代氏(大30回)の開会のことばを受け、幹事代表杉崎護(大16回)から参加者への御礼、及び開催の簡単な趣旨説明で会は始まりまし

最初に、参加者を代表して「長老」杉本仁彦氏(大6回)が、三人の先生方にお祝の言葉を述べられました。そして、杉本氏と同期である高橋先生がご存命だったら、今年傘寿で当然の先生方のお祝いになるのにと、想えば大変残念であるとの話をされました。生物化学研究室発足当時の実験室の様子やクラス対抗の駅伝など思い出話をされ、祝辞のまとめとして、嶋林先生、田口先生に

一点の曇りもない素晴らしい秋晴れの日、平成二八年一〇月一五日(土)、生物化学・分子細胞生物学研究室の同門会は七十七名が集い、ホテルグリーンパーク津で開催されました。参加者の

## 失われた一五年間を取り戻そう

同窓会は、同学年の横のつながりも大切ですが、そこに縦のつながりが加わってこそ強くなります。ぜひ参加したいと希望しながら、絆を断たれてしまっている卒業生がいます。

三重大学で農芸化学系研究室を専攻卒業しながら、同窓会「三翠化学会」に入会出来ていない、入会のチャンスに恵まれなかった人たちが多数いることを知っていますか。

農芸化学科の変遷  
三翠化学会の出発母体である三重大学農学部農芸化学科は、三重農林専門学校農産製造科を源流として、昭和二四年三重大学農学部

農芸化学科として発足し、幾多の学部改組により次のような変遷を辿り現在に至っています。  
昭和二一年 三重農林専門学校農産製造科設立  
昭和二四年 三重大学農学部農芸化学科設立 昭和二八年三月第一回卒業生

門会を開催する運びとなりました。

当日は、司会者小川悦代氏(大30回)の開会のことばを受け、幹事代表杉崎護(大16回)から参加者への御礼、及び開催の簡単な趣旨説明で会は始まりまし

最初に、参加者を代表して「長老」杉本仁彦氏(大6回)が、三人の先生方にお祝の言葉を述べられました。そして、杉本氏と同期である高橋先生がご存命だったら、今年傘寿で当然の先生方のお祝いになるのにと、想えば大変残念であるとの話をされました。生物化学研究室発足当時の実験室の様子やクラス対抗の駅伝など思い出話をされ、祝辞のまとめとして、嶋林先生、田口先生に

き、三翠化学会では最も若い、現在最後の会員となっている。  
平成二二年 三重大学生物資源学部 三学科制が発足 農芸化学コースは、生物圏生命科学科と資源循環学科に分割。  
平成一六年三月に新学科の卒業生を送り出されるも、この年より三翠化学会への入会は現在に至るまで途絶えている。大学側は当初新しい学科で同窓会が設立されることを望んでいたが、残念ながら大学の期待に沿わず、現在に至るまで彼らの同窓会は設立されていない。

平成二七年 生物資源学部の改組により、旧農芸化学及び旧水産食糧系の研究室が生物圏生命科学科の応用



源学部生物圏生命科学科(大1回生)より、三人の先生方に記念品(幹事小川悦代氏、苦心惨憺の選定品と紅白饅頭が手渡されました。ついで、竹林慎一郎氏(生物資源学部農芸化学コース大45回)の音頭で乾杯し、祝宴に入りました。

源学部生物圏生命科学科(大1回生)より、三人の先生方に記念品(幹事小川悦代氏、苦心惨憺の選定品と紅白饅頭が手渡されました。ついで、竹林慎一郎氏(生物資源学部農芸化学コース大45回)の音頭で乾杯し、祝宴に入りました。

源学部生物圏生命科学科(大1回生)より、三人の先生方に記念品(幹事小川悦代氏、苦心惨憺の選定品と紅白饅頭が手渡されました。ついで、竹林慎一郎氏(生物資源学部農芸化学コース大45回)の音頭で乾杯し、祝宴に入りました。

源学部生物圏生命科学科(大1回生)より、三人の先生方に記念品(幹事小川悦代氏、苦心惨憺の選定品と紅白饅頭が手渡されました。ついで、竹林慎一郎氏(生物資源学部農芸化学コース大45回)の音頭で乾杯し、祝宴に入りました。

源学部生物圏生命科学科(大1回生)より、三人の先生方に記念品(幹事小川悦代氏、苦心惨憺の選定品と紅白饅頭が手渡されました。ついで、竹林慎一郎氏(生物資源学部農芸化学コース大45回)の音頭で乾杯し、祝宴に入りました。

源学部生物圏生命科学科(大1回生)より、三人の先生方に記念品(幹事小川悦代氏、苦心惨憺の選定品と紅白饅頭が手渡されました。ついで、竹林慎一郎氏(生物資源学部農芸化学コース大45回)の音頭で乾杯し、祝宴に入りました。

源学部生物圏生命科学科(大1回生)より、三人の先生方に記念品(幹事小川悦代氏、苦心惨憺の選定品と紅白饅頭が手渡されました。ついで、竹林慎一郎氏(生物資源学部農芸化学コース大45回)の音頭で乾杯し、祝宴に入りました。

源学部生物圏生命科学科(大1回生)より、三人の先生方に記念品(幹事小川悦代氏、苦心惨憺の選定品と紅白饅頭が手渡されました。ついで、竹林慎一郎氏(生物資源学部農芸化学コース大45回)の音頭で乾杯し、祝宴に入りました。

源学部生物圏生命科学科(大1回生)より、三人の先生方に記念品(幹事小川悦代氏、苦心惨憺の選定品と紅白饅頭が手渡されました。ついで、竹林慎一郎氏(生物資源学部農芸化学コース大45回)の音頭で乾杯し、祝宴に入りました。

源学部生物圏生命科学科(大1回生)より、三人の先生方に記念品(幹事小川悦代氏、苦心惨憺の選定品と紅白饅頭が手渡されました。ついで、竹林慎一郎氏(生物資源学部農芸化学コース大45回)の音頭で乾杯し、祝宴に入りました。

源学部生物圏生命科学科(大1回生)より、三人の先生方に記念品(幹事小川悦代氏、苦心惨憺の選定品と紅白饅頭が手渡されました。ついで、竹林慎一郎氏(生物資源学部農芸化学コース大45回)の音頭で乾杯し、祝宴に入りました。

源学部生物圏生命科学科(大1回生)より、三人の先生方に記念品(幹事小川悦代氏、苦心惨憺の選定品と紅白饅頭が手渡されました。ついで、竹林慎一郎氏(生物資源学部農芸化学コース大45回)の音頭で乾杯し、祝宴に入りました。

源学部生物圏生命科学科(大1回生)より、三人の先生方に記念品(幹事小川悦代氏、苦心惨憺の選定品と紅白饅頭が手渡されました。ついで、竹林慎一郎氏(生物資源学部農芸化学コース大45回)の音頭で乾杯し、祝宴に入りました。

源学部生物圏生命科学科(大1回生)より、三人の先生方に記念品(幹事小川悦代氏、苦心惨憺の選定品と紅白饅頭が手渡されました。ついで、竹林慎一郎氏(生物資源学部農芸化学コース大45回)の音頭で乾杯し、祝宴に入りました。

源学部生物圏生命科学科(大1回生)より、三人の先生方に記念品(幹事小川悦代氏、苦心惨憺の選定品と紅白饅頭が手渡されました。ついで、竹林慎一郎氏(生物資源学部農芸化学コース大45回)の音頭で乾杯し、祝宴に入りました。

源学部生物圏生命科学科(大1回生)より、三人の先生方に記念品(幹事小川悦代氏、苦心惨憺の選定品と紅白饅頭が手渡されました。ついで、竹林慎一郎氏(生物資源学部農芸化学コース大45回)の音頭で乾杯し、祝宴に入りました。

源学部生物圏生命科学科(大1回生)より、三人の先生方に記念品(幹事小川悦代氏、苦心惨憺の選定品と紅白饅頭が手渡されました。ついで、竹林慎一郎氏(生物資源学部農芸化学コース大45回)の音頭で乾杯し、祝宴に入りました。

源学部生物圏生命科学科(大1回生)より、三人の先生方に記念品(幹事小川悦代氏、苦心惨憺の選定品と紅白饅頭が手渡されました。ついで、竹林慎一郎氏(生物資源学部農芸化学コース大45回)の音頭で乾杯し、祝宴に入りました。

源学部生物圏生命科学科(大1回生)より、三人の先生方に記念品(幹事小川悦代氏、苦心惨憺の選定品と紅白饅頭が手渡されました。ついで、竹林慎一郎氏(生物資源学部農芸化学コース大45回)の音頭で乾杯し、祝宴に入りました。

源学部生物圏生命科学科(大1回生)より、三人の先生方に記念品(幹事小川悦代氏、苦心惨憺の選定品と紅白饅頭が手渡されました。ついで、竹林慎一郎氏(生物資源学部農芸化学コース大45回)の音頭で乾杯し、祝宴に入りました。

源学部生物圏生命科学科(大1回生)より、三人の先生方に記念品(幹事小川悦代氏、苦心惨憺の選定品と紅白饅頭が手渡されました。ついで、竹林慎一郎氏(生物資源学部農芸化学コース大45回)の音頭で乾杯し、祝宴に入りました。

源学部生物圏生命科学科(大1回生)より、三人の先生方に記念品(幹事小川悦代氏、苦心惨憺の選定品と紅白饅頭が手渡されました。ついで、竹林慎一郎氏(生物資源学部農芸化学コース大45回)の音頭で乾杯し、祝宴に入りました。

## 記事募集

会員の皆様からの投稿をお待ちしております。内容は近況、趣味、過去の思い出など、何でも募集いたします。

## 大学12回 クラス会

農芸化学科大12回生(昭和39年卒)は、毎年地区持回りでクラス会を開催しています。本年は三重の担当で、参加メンバー15名の喜寿をお祝い、大学往訪と、名張在住で92歳の恩師松嶋欽一先生との面談を計画しました。勿論、毎年ご出席の嶋林先生(大1回)も、栗東市よりご参加下さいました。

先生がお元気に出迎えられ、早速ロビーで、健康長寿の講義を一時、熱弁を振るわれました。この中で、食(家庭菜園の新鮮野菜、麦飯)、運動(足を鍛えよ)、社会参加(趣味を通して多くの人と交わる)を教えられました。最後にメンバーの竹内希彦さんが、松嶋先生のお好きな王維の詩「送元二使安西」を朗々と吟じ、先生から温かいアドバイスも受けました。



今西康隆(大12回)